

## <多機能型事業所：生活介護/就労継続 B 型>

### 多機能型事業所 童里夢

#### 令和元年度 事業報告書

##### 《令和元年度の経過と評価》

令和元年度は、法人全体の基盤の強固、連携の強化、及び業務の共通化を重点課題し、業務内容及び、職員体制の整理を進めた。また、来年度は法人設立20周年の節目の年であり、社会福祉法人童里夢 中長期計画を作成するに伴う大枠の検討を始め、来年度、中長期計画を職員参画で作成を進め、次の10年に向けての明確な目標を設定する。

今年度は、現状の多機能型事業所童里夢の運営体制の精査、新人職員の入職、職員の配置転換を踏まえ、令和元年度以降の継続的、安定的な運営体制の構築が求められた。童里夢では、今年度も職員の配置転換、新人職員の入職の影響もあり、前年度から引き続き、事業所内の雰囲気にも良い変化が見られ、若い職員の提案と経験ある職員の方で、少しずつではあるが、利用者支援、生産活動共に、前向きな取り組みが見られた。また、初めて第三者評価の受審を行い、職員も自己評価に参加することで事業所の状況について確認することができ、新たな取り組みや改善について、気づきを得る機会となった。しかし、支援、生産活動共に形骸化した状態も続いており、体制、及び、業務においても改善や変化が求められた。そのため、9月にレストラン班の新たな生産活動種目への転換として、令和3年度開業を目標に検討を開始した。また、生産活動以外の日中活動プログラムの検討を進めるに伴い、雑貨班を従来のエコービルでの支援体制から、1月に事務室を支援室として改装し、雑貨班利用者の障害特性や生産活動内容を考慮し、エコービル、支援室の2カ所に分かれ、日中活動として生産活動と健康活動プログラムの構築を長期的な課題として、来年度以降も継続して取り組んでいく。

虐待報道等、障害福祉サービス事業所の運営、事業所職員の対応等に厳しい目が注がれる状況の中、12月に事業所内にて虐待と思われる行為が発覚し、該当職員への聞き取り調査を行い、常態化しているわけではないが、職員の虐待、不適切支援に対する認識の低さ、感情のコントロール等、教育面での課題も見られ、法人全体の問題として早急な対応を行った。法人として「虐待を根絶する宣言」を作成し、全職員対象に説明、虐待防止委員会を設置した。虐待、不適切支援に対する法人全体及び、職員一人一人への意識化、専門職としての倫理、知識、スキルの向上が法人の取り組みとして求められている。事業所においても、利用者支援について、家族からの相談もあり、現状、利用者支援体制に課題も多く見られる。生産活動が目的ではなく、利用者支援の手段として生産活動を実施していることを支援員一人ひとりが理解し、利用者主体の意識の改善と共に、事業所体制の課題と捉え、令和2年度も継続して、体制強化、業務の明確化、効率化と共に、職員研修を始め、人材育成を今後も最重要課題として、社会福祉法人、福祉事業所としての社会的責務を果たすことが必要である。

年度末に新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、事業所の感染症対策及び、法人の事業運営対策の検討が求められた。新型コロナウイルスへの正しい理解と適切な対応、法人全体での共有、利用者、家族への情報提供等、来年度以降の課題であり、また、新型コロナウイルスによる社会情勢、社会の仕組の変化にも注視する必要がある。

### 【ばくばくぱん】

令和元度は、店舗型業態として継続的な生産活動、支援体制を整備することが優先課題であった。パン班職員から作業班運営において、「店舗に来客者を増やす」ことを目的とした前向きな意識により、ランチ本への掲載、顧客アンケート、SNSの活用等、来店客の増加への取り組みを行った。利用者支援では、利用者への作業内容の説明や利用者の関わる部分を増やし、利用者のやりがい、役割を意識した支援内容に注力した。特に他作業班で対人関係問題がある利用者の受け入れ等は、慎重に丁寧に受け入れを行い、パン班での居場所を作ることができ、安定と定着を図ることができた。生産活動においても、また、コスト削減、粗利益の増額を意識した取り組みを行い、パン全般の価格の見直しを行った。

### 【雑貨班】

障害特性が様々な利用者15名の支援を行うに伴い様々な生産活動種目の提供を行った。生産活動は、委託作業、木工作业、ポスティング代行業務を中心に行っており、作業内容によっては、利用者が関われる部分が少なく、職員の負担が大きくなることも多いため、作業班利用者の方の人数、障害特性を踏まえ、業務の整理が課題であった。生産活動以外でも、クラブ活動等諸活動では、雑貨班職員が主導で行っており、また、日々の利用者送迎、給食の運搬等、事業所内での貢献度も大きい。利用者の相性等による対人トラブルもあり、環境面での配慮が取りづらい部分も課題であった。生産活動では、諸経費+工賃の確保が出来る生産活動の設定、利用者が過ごしやすい人的、物理的な環境設定、及び、利用者が関われる作業種目の拡げ、職員に負担が多い作業種目の減少、撤退の検討が求められた。加えて、利用者の高齢化や様々な障害特性への対応も含め、1月より、事務室を支援室として改装し、雑貨班を2グループに分け、将来的には生産活動以外の活動、健康寿命の向上を図る活動の検討を進める。また、新たな作業種目として自主製品の開発を進め、爬虫類用の餌としてコオロギの繁殖を始め、来年度、作業種目としての設定を目指す。

### 【レストラン班】

令和元年度は、支援体制、業務の効率化を求め、店舗運営を中心に惣菜、お弁当の販売、法人内事業所の給食の提供を行うと共に、6名の利用者への支援を行った。生産活動では、好評を得ていたものの製造や配達での職員に掛かる負担が大きかった弁当の対応も条件付きで受注を受けることができ、高齢者グループホームの昼食提供を週1回継続して行うことができた。店舗はリピーターを中心に来客者数を維持しており、料理に対する評判も良い。給食は童里夢、奏楽の利用者、職員分を賄っており、利用者数の増加に対しても、継続、安定して提供することができ、利用者、家族の方々にも好評を得られている。しかし、原材料の高騰、原材料費率の高さが課題であり、経費削減、価格設定の見直しへの意識化、取り組みに課題が多い。利用者支援については、利用者、家族からの支援に対する相談、指摘から、事業所全体の課題として対応が必要になった。生産活動を目的としている体制からの脱却が必要であり、専門技能が必要な現状の生産活動内容から、レストラン職員の負担感が減少できる新たな店舗型生産活動種目への転換を検討する必要があり、年度途中より、現状のレストラン業務から新たな店舗型への業務転換の検討を始め、令和3年度開業を目標に今後も継続的に検討をすすめる。また、給食

提供についても、将来的な食事提供加算の廃止の可能性を探りつつ、利用者の健康寿命の向上を目的とした栄養バランス、個別対応を目指した給食の提供も同時に検討を進める必要がある。

### 【Pan-Kan製造センター】

製造体制も安定し、取引業者も定着したこともあり、令和元年度も一定の受注、売り上げをあげることができ、利用者工賃も高水準を維持することができた。しかし、パンカンの受注については、社会情勢や世間の防災意識からの影響もあり、例年通りの受注も維持を図る上でも営業活動が求められており、地元、学校、保育園等へのDM等広報活動を行い、少々、反響があった。継続した営業活動の必要性を感じた。利用者支援においては、利用者間同士のトラブルもあり、同事業場で作業が設定できない状況になり、利用者支援に対する意識や対応に課題が見られた。一方、6月に1名、一般就労へ就職することができ、就労支援の成果を出すことができた。定員の空きにより、就労継続B型への利用希望があった生活介護利用者2名をPan-Kan製造センターへ利用変更を行うことができた。多機能型事業所として、他作業班との連携を増す体制になったことで、同一事業所としての取り組みを業務分掌や会議設定から、現状以上の協調体制や業務の工夫が求められる。来年度以降も継続した売上げの確保が目標であり、H A C C Pの導入を進め、品質の維持・向上をより求めていき、営業活動にも力を入れていきたい。

### 《重点課題に対する取り組み》

#### 1. 運営基盤の強化（運営・管理体制、サービス管理）

前年度から引き続き、新たな体制づくりの期間として、中・長期的視点からの事業運営・体制づくりを行った。管理者会議を月に2回設定し、事業所間の協力体制、情報共有体制を整えるが、情報共有や業務の共通化が中心であり、事業運営の検討機関としては、まだ十分とは言えず、今後も継続した取り組みが必要であった。また、事業所間業務兼務者に伴う業務の確認も事業所間での調整が必要であり、今後もより協力体制の構築が求められる。また、利用者支援や業務進行において、共通化、効率化が必要であり、事業所間や職員間で支援や業務の隔たりがないように、来年度以降の課題として支援、業務における規律とマニュアル化を進める。

#### 2. 利用者サービスの拡充

利用稼働日を変更し、年間開所日253日に加え、2日間の活動日を設定した。グループ活動では、活動日の日程を設定し、送迎や職員間の連携を行うことができた。利用者ニーズ、利用者主体を考慮し、利用者自治会を組織したが、十分な時間や提案、話し合いを設けることができず、利用者の希望を尊重した事業運営を今後も積極的に取り組みたい。

送迎についても、年度途中に送迎希望の増員やパンカン利用者の送迎対応、短期入所利用者への送迎対応により、送迎ルート増加、変更を行い対応した。日により送迎利用状況が異なることで、連絡体制が不十分になってしまうことがあり、連絡、確認での人為的ミスの減少に対する取り組みを行なった。今後も利用者増員を踏まえ、送迎体制の

見直しを適時行い、柔軟に対応することが必要である。

生産活動では、社会情勢や地域社会、障害福祉施策の状況に注視し、現在の現状の形骸化した生産活動から、将来的な生産活動内容の見直しを検討する年度となった。来年度、計画を作成し、段階的に投資、修正を行い新たな体制の構築を進める。今後も継続して利用者個々のやりがい、達成感を重視し、生産活動を通しての工賃の増額（収入の増加、コストの削減）を常時意識することで、作業班同士の連携を強化し、事業所全体で取り組むことを目指す。

利用者の高齢化に伴い健康寿命の向上を図る取り組みの必要性もあり、生産活動以外の活動についても新たにアイデアや実践ができる体制を作り、永く健康で健やかな人生が歩める取り組みを進めていきたい。

### 3. 人材育成/支援力の向上

#### ①.利用者支援の全面的点検

前年度から引き続き、重点課題として、事業所運営体制、利用者支援の全面的な点検、職員の専門職としての力量養成を掲げ、各委員会の組織づくり、法人研修への参加、また、事業所内会議（支援会議、職員会議）を通して、各業務、職責、サービスの質について養成を行った。第三者評価の受審を行い、運営体制や利用者支援について、新たな気づきの機会を得ることができ、今後、改善を進めたい。今年度より、利用者支援ソフトの導入により、事業所間、及び事業所内での情報共有が効率的に行うことができるようになった。支援ソフトを有効に活かし、事業や利用者支援力の向上を図る。多機能型事業所童里夢の利用者定員は、生活介護30名であるが、令和元年度末は26名と満たしておらず、利用者確保への取り組みとして、現状の体制を継続しつつ、利用者支援についての点検、見直しを重点的に行いたい。

#### ②.生産活動、及び諸活動の点検・見直し

生産活動は、生産活動種目、職員体制、利用者の障害特性を考慮し、利用者支援の手段と位置づけ、生産活動と利用者支援のバランスを図りながら実施する必要がある。自主製品の売上金額は減少、利益の確保が厳しい状況が続いている。生産活動では、社会情勢の関係で原材料を始め諸経費の高騰が見られるが、諸経費に対する意識化、管理が十分ではなく、予算管理、予算執行についても各作業班の意識は希薄であり、四半期ごとの生産活動予算執行率と原材料費率を開示し、生産活動における諸経費の意識化を図ることをすすめた。利益率の向上、生産活動工程の見直し、細分化、マッチングも求められ、来年度の課題と言える。上記したように、新たな生産活動への転換と共に、今後、食事提供加算の撤廃の可能性、給食費の価格値上げ等、利用者負担額の増額を踏まえ、工賃の向上と共に工賃規程の改定が求められる。

#### ③.福祉サービス専門職としての力量養成(対人支援の観点)

職場全体で福祉サービス専門職としての在り方を見直しとしての取り組みも、即効性は乏しく、今後も継続課題として、人材育成の方向性を出し、福祉専門職としての資質、意識を養い高めるしくみをつくる必要があった。職員研修、各種会議の設定や取り組み

にも課題が多く、専門職員としての意識、力量の向上にはまだまだ課題と継続的な取り組みが必要である。童里夢では、将来的に基幹的役を担う職員を対象に知識や意識の共有とボトムアップの仕組みづくりを目的に業務改善会議を設定し、月に1回、事業運営、会計、業務改善について、学習と提案、検討を行った。

#### ④.業務計画、職員研修の計画的実施

事業所外研修では、職員体制、主に現場での職員の欠如を意識すると研修の積極的参加が困難であるが、若手職員は優先して基礎研修初め、研修機会を設けた。また、行動援護従事者養成研修の受講ができ、来年度以降の事業運営の選択肢や可能性が拡大した。しかし、研修機会としては支援員により偏りがあり、来年度以降の課題として取り組みたい。事業所内研修として、中間職員対象のローマネジメント研修、新人、及び若手職員対象のOJTサポートや年間4回の法人全体研修等、計画的に行うことができ、今後も継続した実践が求められる。

来年度以降も職員体制の構築と共に研修計画の見直しを行なう必要があり、WEB講義等のツールを利用し計画的、定期的な研修をしていきたい。また、業務マニュアル、各種規程についても職員周知が十分ではなく、継続した課題として取り組みたい。

#### 4.環境点検、環境整備、建物・備品機器類の点検

昨年度より、童里夢事務所内の配置及び、環境整備を行い、個人指定席の廃止、個人使用パソコンの廃止をし、童里夢事務所内のパソコンには、共通フォルダを作成、どのパソコンからでもデータの使いができるようになり、各作業班1台とし、パソコンの台数を減少した。また、簿冊管理に関しても各職員で保管することは止め、書庫に保管するように設定をし、机上の整理整頓、業務の効率化を図った。今年度は、パソコンをノートパソコンに一部変更し、ネット環境の無線化を図り、どこでも事務業務ができるように効率化を図った。そのため、1月には事務室を支援室へと変更し、支援室を日中は利用者支援で使用し、利用者退所後、事務作業ができる部屋へとすることができた。また、支援ソフトのクラウド化に伴い、文書管理の方法も変更し、記録管理、業務効率化を継続して取り組み、安全衛生管理における5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）を踏まえ、来年度以降も働きやすい環境整備を重点課題とし取り組みたい。

《 地域活動:事業所の社会化 》

福祉体験学習・ボランティア体験学習・職場体験学習等 受入日/人数					
受入日	学校名	人数	受入日	学校名	人数
8/8	青陵中学校	2	11/13~15	石巻中学校	1
11/13~15	東陵中学校	1	11/29	東陵中学校	2
特別支援学校等現場実習 受入日/人数					
10/15~18	くすのき 特別支援学校	2			

社会福祉援助技術実習/その他研修等 受入日/人数					
8/28~10/3 24日間	日本福祉大学	1	9/24~10/26 24日間	日本福祉大学	1

中堅教員（11年目）研修・社会貢献型研修 受入日/人数					

日中一時支援事業 人数												
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
人数	0	0	0	0	1	0	0	1	1	1	1	1
延べ	0	0	0	0	4	0	0	1	2	2	2	3
年間延べ人数：14人												

《 事業所外生活支援:自立(律)生活訓練(宿泊体験)の連絡・調整 》

自立（律）生活訓練（宿泊体験） 人数												
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
延べ人数	4	3	5	3	7	4	4	5	3	1	4	4
年間延べ人数：47人												

《 防災計画・安全管理:防災訓練 》

防災訓練・学習 実施日			
5/30	防災学習	12/20	避難訓練（火災想定）
9/30	防災訓練（地震想定）	3/16	地震想定引取り訓練 ※家族対応訓練

《 職員研修 》

月	内 容	対象者
4月	フレッシュマンスキルアップ研修 食品衛生講習会	生活支援員 食品衛生管理者
5月	障害福祉サービス事業所等職員初級研修	生活支援員
6月	法人全体研修 新規採用者研修	法人全体職員 生活支援員
7月	全国知的障害関係施設長等会議 東三セルフ事務員研修 ローマネジメント研修	管理者 事務員 中間職員
8月	安全運転講習研修 OJT サポート研修 東三セルフ施設見学研修	生活支援員
9月	東三セルフ療育研修（インシデントプロセス法） 会計基準実務研修 法人全体研修	生活支援員 事務員 法人全体職員
10月	安全運転講習会 行動援護従事者養成研修（3回） 食品衛生講習会	安全運転管理者 生活支援員 食品衛生管理者
11月	食品営業許可講習会 東三セルフ事務員研修 OJT サポート研修	管理者 事務員 生活支援員
12月	愛知県知的障害関係施設職員等研究大会 法人全体研修 ローマネジメント研修	生活支援員 法人全体職員 中間職員
1月	HACCP 講習 年金社会保険セミナー	生活支援員 事務員
2月	東三セルフ合同研修会 サービス管理責任者更新研修 OJT サポート研修	生活支援員
3月	法人全体研修 ローマネジメント研修	法人全体職員 中間職員

## 【障害支援区分別人数】

生活介護

性別	区分 6	区分 5	区分 4	区分 3	区分 2	区分 1	非該当	合計	平均区分
男性	3	7	3	0	-	-	-	13	
女性	1	6	6	0	-	-	-	13	
合計	4	13	9	0	0	0	0	26	4.8

就労継続支援 B 型

性別	区分 6	区分 5	区分 4	区分 3	区分 2	区分 1	非該当	合計	平均区分
男性	0	0	6	3	0	0	0	9	
女性	0	0	2	1	1	0	0	4	
合計	0	0	8	4	1	0	0	13	3.5

## 【年齢別人数】

生活介護

性別	20歳未満	20-25	26-29	30-39	40-49	50-59	合計
男性	0	2	4	1	6	0	13
女性	0	1	2	5	4	1	13
合計	0	3	6	6	10	1	26

性別	平均年齢	最低年齢	最高年齢
男性	35歳3ヶ月	20歳0ヶ月	49歳6ヶ月
女性	38歳9ヶ月	21歳1ヶ月	52歳4ヶ月

就労継続支援 B 型

性別	20歳未満	20-25	26-29	30-39	40-49	50-59	60-69	合計
男性	0	0	3	4	1	0	1	9
女性	0	3	0	1	0	0	0	4
合計	0	3	3	5	1	0	1	13

性別	平均年齢	最低年齢	最高年齢
男性	36歳2ヵ月	27歳1ヶ月	62歳11ヶ月
女性	27歳8ヶ月	24歳1ヶ月	37歳5ヶ月



【生産活動 売上金額】

生活介護

月	ばくばくぱん	れすとらん くう	雑貨班	計 (円)
4	457,478	601,760	235,174	1,294,412
5	505,314	376,630	188,848	1,070,792
6	553,330	541,280	197,021	1,291,631
7	497,926	541,510	120,634	1,160,070
8	559,904	434,630	96,423	1,090,957
9	428,035	401,600	86,426	916,061
10	531,136	649,130	103,892	1,284,158
11	587,746	306,930	151,405	1,046,081
12	828,075	513,430	98,038	1,439,543
1	424,908	465,680	129,805	1,020,393
2	416,387	360,070	193,513	969,970
3	358,582	438,350	155,394	952,326
計	6,148,821	5,631,000	1,756,573	13,536,394

就労継続B型

月	Pan-Kan 製造センター
4	2,081,315
5	1,943,664
6	1,754,906
7	1,462,673
8	3,035,659
9	3,812,215
10	3,389,594
11	1,607,277
12	1,481,886
1	4,582,852
2	2,033,210
3	6,778,060
計	33,963,311

【原材料費率＝原材料費／売上金】

	ばくばくぱん	れすとらん くう	雑貨班	Pan-Kan 製造センター
売上	6,148,821	5,631,000	1,756,573	33,963,311
原材料	2,016,725	2,438,400	280,562	13,762,235
比率	32.8%	43.3%	16.0%	40.5%

※雑貨班の原材料費は、外注加工費を含む。